

スピーカーアキュライザーの導入(9)
-STAGE+(2)-

1. 始めに

前報(8)に引き続き、スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴を実施します。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴計画

スピーカーアキュライザーSPA-7の設定条件は前報(2)に述べたとおりとします。今回は、ドイツグラモフォンの配信サイト STAGE+からアルバムの配信を試聴します。試聴のポイントは、最新の収録は鮮度感、以前の収録は鮮度感の復元、パッケージメディアがあるものは、それとの比較にも注目します。対象の Stage+の配信音源は次のとおりで、PC から Sonica DAC 経由で再生します。

バッハ ヴァイオリン、チェロ、ギターのためのソナタと組曲作品集 **/**

Shlomo Mintz (ヴァイオリン)

Mischa Maisky (チェロ)

Goeran Soellerscher (ギター)

バッハ ヴァイオリン協奏曲集 **

ヒラリー・ハーン(ヴァイオリン)

マーガレット・バーチャー(第2 ヴァイオリン)

アラン・ヴォーゲル(オーボエ)

ジェフリー・カヘイン指揮ロサンゼルス室内管弦楽団

バッハ ヴァイオリン協奏曲集 ***

Giuliano Carmignola (ヴァイオリン)

Concerto Koeln

モーツァルト ヴァイオリン協奏曲 5 番 *

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

パーボ・ヤルヴィ指揮ドイツ室内フィルハーモニー・プレーメン

モーツァルト レクイエム **

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

バッハ Goldberg 変奏曲 *

ラン・ラン (ピアノ)

シューベルト 冬の旅

ディートリッヒ・フィッシャー・ディスカウ (バリトン)

ジェラルド・ムーア（ピアノ）

*：演奏は違うが CD を所有

**：演奏が同じアナログ盤を所有

***：演奏が同じ CD を所有

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

上記は、STAGE+のサイトから、順次指定して再生していきます。

バッハのヴァイオリン、チェロ、ギターのためのソナタと組曲作品集は、Mintzは無伴奏ヴァイオリンソナタとパルティータ、Maiskyはチェロ組曲、Soellscherはリュート組曲などからのギター編曲版の演奏です。Mintzの演奏は、初めて聴くものですが、技巧と音色の美しさで定評のある奏者とのことです。演奏はオーソドックスなもので、透明度の高い音色で引き込まれるような演奏です。Maiskyのチェロ組曲の演奏は、技巧的で軽やかで華麗な奏法であり、マイスキー節の面目躍如です。Soellscherのギター曲は、リュート、ヴァイオリンやチェロなどの曲からのギター曲への編曲の演奏で、しみじみとした情緒に溢れるもので、編曲による違和感もなく、原曲の表情を素直にギターへの編曲に活かしています。いずれもアルバムの配信とは思えないほどで、無伴奏ヴァイオリンソナタとパルティータとチェロ組曲は、ミルシュテインやジャンドロンとフルニエのアナログ盤的な表情も見せてくれます。なお、リュート組曲のリュートによる別の演奏家の演奏は、前報(7)においてSpotifyの配信で聴いています。

ヒラリー・ハーンのバッハのヴァイオリン協奏曲集は、アナログ盤を持っていますが、ヒラリー・ハーンのヴィヨームの音色は、アナログ盤に近いところまで良くなっています。

バロックヴァイオリンのGiuliano Carmignolaのバッハのヴァイオリン協奏曲集は、CDをもっており、演奏会では2度ほど別の曲を聴いています。バロックアンサンブルのConcerto Koelnも演奏会では別の曲を聴いています。配信音質はCDと遜色ないほどですし、ノンヴィブラートで勢いよく弾く演奏スタイルは演奏会の雰囲気を出させてくれます。また、同じ曲の演奏の上記のヒラリー・ハーンとは、ヴァイオリンの音色の違いもよく分かります。

モーツァルトのヴァイオリン協奏曲5番は、ヒラリー・ハーンのヴィヨームの生で聴くと弱音の繊細な美しさが際立っていますが、CDに劣らず、とても配信とは思えないレベルに達しています。

モーツァルトのレクイエムは、かなり以前のカラヤン指揮ベルリンフィルの演奏ですが、アナログ盤は5枚ほどあり、そのうちの1枚は、演奏違いのカラヤン盤です。元音源の収録は、かなり以前のものでありながら、SPA-7導入により鮮度感が向上し、ソリストや合唱の空間表現も一層確かなものになっています。カラヤンのアナロ

グ盤に比べると、配信も相当にグレードが上がってきたと感じられます。
バッハの Goldberg 変奏曲は、2020 年の教会録音の CD が発売されています。教会の残響豊かな環境下での、やさしいピアノの響きが聴きどころです。
シューベルトの冬の旅は、言わずと知れたディスカウとムーアのコンビのアナログの決定盤ですが、こうやってデジタルリマスターの配信を聴いても新鮮さを失わないでデジタル臭さも感じられず、昔、友人宅でよく聴いたアナログ盤の印象を思い出させてくれます。

4. まとめ

現存する演奏家の最新収録、ヒラリー・ハーンのような現存する演奏家の少し前の収録、ディスカウのようなかなり以前に収録のアナログマスターの名演奏のデジタルリマスターなどですが、いずれも鮮度感に富んでおり、中には対応するアナログ盤の表情に近い音質を聴かせてくれるものもありました。

以上